学芸地理 74 号 2018 年 pp.27-39

『君たちはどう生きるか』を手がかりとした社会科および地理学習による公民的資質の育成に向けての一考察

牛垣　雄矢*

キーワード：『君たちはどう生きるか』，社会科学習，地理学習，公民的資質，つながり

Ⅰ　はじめに

吉野源三郎著『君たちはどう生きるか』は，第二次世界大戦前の1935年から1937年に全16巻で刊行された山本有三編『日本少国民文庫』の第5巻として，同シリーズの最後に配本されたものである．それ以降，1982年11月には岩波文庫版（吉野, 1982）（以下，文庫版とする）が発行されるなど，長らく教育書の古典として読まれ続けてきた．2017年8月にはマガジンハウス社からその漫画版（吉野・羽賀, 2017）（以下，漫画版とする）が刊行されると，2018年3月までに発行数200万部を超す大ヒットとなり，多くの教育現場で読まれている．

同書は，文庫版に所収されている丸山真男による回想文で「この一九三〇年代末の書物に展開されているのは，人生いかに生くべきか，という倫理だけでなくて，社会科学的認識とは何かという問題であり，むしろそうした社会認識の問題ときりはなせないかたちで，人間のモラルが問われている点に，このユニークさがあるように思われます.」（pp.310-311）と記されているとおり，社会科学的な事象に関する記述があり，その中には地理に関わる記述も多い．

著者は，教育学部の教員となった2013年以降，学生に対する通常の授業や教員免許状更新講習の場で，この文庫版を扱ってきた．このたび，漫画版が大ヒットして同書が注目される中，同書を手がかりとして，社会科および地理学習による公民的資質の育成の可能性や方法を改めて検討することが，本稿の目的である．

Ⅱでは，最初に文庫版の章構成と各章の概要を示して同書の全体像をおさえ，その中から特に社会科や地理の学習で扱うことがらに関する3つの章を取り上げ，その内容と関連する社会科および地理学習を紹介する．また各節において，該当箇所の漫画版の描かれ方についても適宜紹介する．Ⅲでは，Ⅱの内容を授業や講習で伝えた際の受講生の反応を把握するために，大学の授業で学生に課したレポートと，教員免許状更新講習で課した試験の解答を参照し，同書を手がかりとした学習方法を検討する．Ⅳは本稿のまとめとする．

本書は，中学生の主人公である通称コペル君とその叔父さんとの間で交わされる手紙のやり取りが中心で，コペル君が気づいたことや考えたことを手紙に記して叔父さんに送付し，叔父さんがそれに返信する形で構成されている．本稿では，両者について通称である「コペル君」,「叔父さん」と表現する．

* 東京学芸大学教育学部

Ⅱ　『君たちはどう生きるか』の内容とこれに関連する社会科および地理学習

1．文庫版の章構成と概要

まずは『君たちはどう生きるか』文庫版の全体構成について紹介する（第1表）.

一「へんな経験」では，Ⅱの2で詳しく見るように，都心に位置する銀座のデパートの屋上から見える人が，毎日朝に郊外から電車でやってきて，夕方に帰っていく事実を知り，コペル君が人間は分子のようなものと感じる．これにより，それ以前の個人的視点から全体的・俯瞰的な視点が芽生え，一人の人間は社会を構成する一分子であることに気づき始める.

二「勇ましき友」では，コペル君の友人の浦川君が馬鹿にされ，それに怒った北見君が浦川君を守ろうとした出来事から，人間の立派さとは何かを自身の魂で考えること，自身の胸から湧き出てくる生き生きとした感情から判断すること，その感情はその時だけにとどまらない意味があり，それが本当の思想であるということについて学ぶ．主体者として，どのように感じ，考え，行動するかを考える章である.

三「ニュートンの林檎と粉ミルク」では，Ⅱの3で詳しく見るように，粉ミルクが幼少のコペル君の手に届くまでの間に多くの人が関わり，それは他の多くの人やモノについても同様であることに気づき，「人間分子の関係―網目の法則―」と名づけるが，その関わりから人間らしい関係とは何か，について学ぶ.

四「貧しき友」では，実家の稼業である豆腐屋の手伝いで油揚げを作り，販売をしている浦川君の姿から，裕福な生活をしていても消費しかしていない人間よりも，何かを生産して世の中に送り出す人の方が立派な人間である，ということを学ぶ．またこの章の最後に，中学生のコペル君にも日々生み出しているものがあり，それは何かと問いかけられる.

第1表　『君たちはどう生きるか』（岩波文庫版，1982年発行）の章構成と主な内容

まえがき	
一	へんな経験：一人の人間は，全体（社会）を構成する一分子だ，という考え（個人的視点から全体的・俯瞰的視点）の獲得．大人の地図的なとらえ方の獲得について.
二	勇ましき友：自分自身の経験に基づき，自分ならどのような人間を立派と判断するか，という主体性の問題について.
三	ニュートンの林檎と粉ミルク：モノを介した世界中の人と人との結びつきと，互いに好意をつくしそれを喜びとする人間らしい関係について.
四	貧しき友：立派な人間とは，世の中に対して何かを生産する人間である，という考え方について.
五	ナポレオンと四人の少年：英雄とか偉人とかいわれている人々の中で，本当に尊敬が出来るのは，人類の進歩に役立った人だけである，という考え方について.
六	雪の日の出来事：友達を守るという約束をコペル君が一人果たさず裏切ってしまった出来事について.
七	石段の思い出：人間は本来，調和して生きてゆくべきもの．人間は，正しい道義に従って，何が正しいかを知り，それに基づいて自分の行動を決定する力をもっていること．それが他の物質の分子の運動とは異なる点であることについて.
八	凱旋：友人との和解について.
九	水仙の芽とガンダーラの仏像：水仙をとおして，土の深いところからでも，のびて来ずにはいられなかったこと．ガンダーラの仏像をとおして，学問や芸術は，時空間を超えてつながっていること．人間によってつくられた文化は，水仙のように何千年の歴史の中でも大きく動いていることについて.
十	春の朝：これまでの学びを踏まえ，生き方についての考えを綴る．「自分がいい人間になって，いい人間を一人この世の中に生み出すことは，僕にでも出来るはずです．…僕は，すべての人がおたがいによい友だちであるような，そういう世の中が来なければいけないと思います．人類は今まで進歩して来たのですから，きっと今にそういう世の中に行きつくだろうと思います．そして僕は，それに役立つような人間になりたいと思います.」
回想	

五「ナポレオンと四人の少年」では，ナポレオンの人生や彼が行った事業を例に，「英雄とか偉人とかいわれている人々の中で，本当に尊敬が出来るのは，人類の進歩に役立った人だけだ．そして，彼らの非凡な事業のうち，真に値打ちのあるのは，ただこの流れに沿って行われた事業だけだ．」（p.192）ということを学ぶ．またこの章の最後に，囚われの身となったナポレオンが，久しぶりに敵国の民衆の前に姿を現す際にも，毅然とした態度をとったことから，「人類の進歩と結びつかない英雄的な精神も空しいが，英雄的な気魄を欠いた善良さも，同じように空しいこと」（p.195）についても学ぶ．

六「雪の日の出来事」では，友人の北見君が上級生にいじめられそうになった際には仲間の皆で助けるという以前に交わした約束を，コペル君だけが果たせず裏切ってしまう．

七「石段の思い出」では，友人たちを裏切ってしまい自宅で寝込んでいるコペル君が，母親や叔父さんとの会話の中で，きれいな心で導き出した行動を，勇気をもって実行することの大切さ．裏切ってしまったことで感じる心のつらさは，人間同志が本来は調和して生きてゆくべきであることの表れであること．自分が誤っていた場合はそれを認め，何が正しいかを知り，それに基づく行動を自分で決定する力を，人間がもっていること．その誤りから立ち直ることができる点が，「人間分子」の運動がほかの物質の分子の運動と異なる点であること．以上について学ぶ章である．

八「凱旋」では，裏切ってしまった友人に謝りの手紙を送り，友人たちと再会し，仲直りをする．

九「水仙の芽とガンダーラの仏像」では，Ⅱの4で詳しく見るように，黄水仙の球根が土中の深いところからでも，太陽の熱を感じ，明るい地上に向かって伸びてゆかずにはいられなかったことを知る．またガンダーラの仏像を作った人々が，長い間東洋の空気を吸い，仏教の気分に浸っていたギリシャ人であり，この仏像は仏教思想とギリシャ彫刻の技術が結びついて生まれたことを知り，学問や芸術に国境がないことに感動する．

十「春の朝」では，Ⅱの4で見るとおり，これまでの学びを踏まえて，自分はどう生きるか，について思いを綴る．

このほか文庫版の巻末には，丸山真男「『君たちはどう生きるか』をめぐる回想―吉野さんの霊に捧げる―」という解説文が掲載されている．三章での叔父さんとコペル君や友人たちとのやり取りで「ニュートンの発見というのは何かというと，地球上の物体に働く重力と，天体の間に働く引力と，この二つを結びつけて，それが同じ性質のものだということを実証したところにあるんだ．だから，この二つの力が，ニュートンの頭の中で，どうして結びついたか，それが問題だというわけだね．…ニュートンは林檎の落ちるのを見て，その落ちる高さを，どこまでも，どこまでも延ばして行き，とうとう月のところまで考えていった．…落ちる物体…と地球との関係は，もう地上のものじゃあない．…天体と天体との関係に等しくなるわけさ．さあ，こう考えると…天体と天体との間に働く引力と，落体に働く重力とが，頭の中で結びついて来るのは，ごく自然のことじゃあないか．…偉大な思いつきというものも，案外簡単なところからはじまっているんだね．…あたりまえのことというのが曲者なんだよ．…どこまでも追っかけてゆくと，もうわかり切ったことだなんて，言っていられないようなことにぶつかるんだね．」（p.79-82）という場面がある．これに対して丸山は「目の前で林檎が木から落ちるのを見て，引力の法則の考えがひらめいた，というお話では思いつきが飛躍しすぎて結

局はニュートンの「天才」ということに帰して，落着してしまいます．けれど，十メートルを百メートルにしたら，一万メートルにしたらと，つぎつぎに想像をすすめてゆくというように「お話」をいいかえてみると，「天才」のアイディアは，にわかに私達凡人にとっても身近な思考の仕方の問題へと相貌を変じます.」（p.318-319）と解説している．天才的なアイディアを生み出すことが，方法によっては凡人にも可能であるという本文の説明を補足している．現象に対して「なぜ」と疑問を繰り返し追求していくことは，地理学も含めて研究をするうえで基本的なことであり，同書は学問に対する姿勢についても教えてくれる．

２．都市内における通勤流動と地図学習による全体的・俯瞰的視点の獲得

『君たちはどう生きるか』文庫版の最初の章「へんな経験」「ものの見方について」は，コペル君が，一人一人の人間は社会を構成する一分子だということに気づく章である．この場面では，地理学習でも学ぶ大都市内部の通勤流動が扱われる．大都市の都心部には事業所が集積し，そこで働く人々は毎朝郊外の住宅地から電車に乗って訪れ，夕方になると郊外の住宅地へ帰っていく．無数の事業所が都心部へ立地したり，無数の人が郊外で居住したりするのは，あくまで個々の事業所や個人の意思決定に基づくものであり，誰かに指示や命令されているわけではない．それでも多くの人がこのような通勤行動をとることによって，大都市が結節地域として一つのまとまりある空間を形成している．この現象を知ることによって，コペル君は自身が全体の中の一部であるということ，社会を構成する一員であるという思いが芽生えるのである．

それは，コペル君が叔父さんと銀座のデパートの屋上で，下を眺めながら語り合う場面である．多くの人が見え，ここから見える範囲が東京市の10分の1など見当がつけば，東京市の人口数を10で割ることで，今見えている人の数が分かるのではないか，とコペル君が訊ねると，都心と郊外で人口密度が違うし，昼と夜だって人の数が違う．日本橋などを目掛けて毎朝，東京の外側から人が押し寄せてきて，夕方になると一斉に引き上げてゆく．「百万を超すくらいな人間が，海の潮のように，満ちたり干いたりしているわけさ」（p.15）と叔父さんが説明すると，コペル君が「人間て，まあ，水の分子みたいなものだねえ」（p.16）とつぶやく．このやり取りから数日後，叔父さんからコペル君へ，以下のような手紙が送られる．

「君の感じたように，一人一人の人間はみんな，広いこの世の中の一分子なんだ．みんなが集まって世の中を作っているのだし，みんな世の中の波に動かされて生きているんだ．…君は，コペルニクスの地動説を知ってるね．コペルニクスがそれを唱えるまで…みんな，太陽や星が地球のまわりをまわっていると，目で見たままに信じていた．これは，一つは，キリスト教の教会の教えで，地球が宇宙の中心だと信じていたせいもある．しかし，もう一歩突きいって考えると，人間というものが，いつでも自分を中心として，ものを見たり考えたりするという性質をもっているためなんだ．…大人の間にもまだまだ根深く残っている．…しかし，自分たちの地球が宇宙の中心だという考えにかじりついた間，人類には宇宙の本当のことが分からなかったと同様に，自分ばかりを中心にして，物事を判断してゆくと，世の中の本当のことも，ついに知ることが出来ないでしまう．大きな真理は，そういう人の眼には，決してうつらないんだ．…今日君が考えた考え方は，どうして，なかなか深い意味をもっているのだ．それは，

地動説から天動説に変わったようなものなのだから」（pp.23 ～ 27）.

このように，コペル君はそれ以前の「目で見たまま」の個人的な視点から，社会全体を上から見てとらえるような全体的・俯瞰的な視点を獲得し，同時に自分自身も社会の一分子，一構成員であるという感覚が芽生えるのである．ここで扱われる大都市内部の通勤流動は，地理学習において学ぶ基本的な知識や空間的な見方であるが，このような現象を地理学習で扱う際の工夫のしかたによっては，コペル君がそうであったように，生徒に対して社会の一員としての認識を与えることができると考えられる．

またこの場面に対して丸山による解説文では，「子供の世間イメージから，おとなの「地図的」とらえ方へという，ひとりひとりの人間の世間認識の成長過程にたとえられるわけです」（p.316）と説明している．地理学および地理教育研究における子供の空間認知に関する研究においても同様の点が指摘されており，小学生に対し真っ新な紙へ地域の地図を何も見ずに描かせると，小学校低学年の児童は主な生活の拠点である自宅と学校との間を一本線で描く場合が多い．しかし高学年になると自身の行動空間が広がることや空間認知が発達することにより，自宅や学校のみならず，自身の行動空間を上から俯瞰したような地図を描くようになる．このような小学生を対象とした空間認知の発達に関しては多くの研究蓄積があり，ここでは深く触れないが，『君たちはどう生きるか』において，主人公が全体的・俯瞰的視点を獲得することによって，社会の一員であることの認識が芽生え始めたことを踏まえると，空間認知の発達は，ただそれ自体の問題にとどまらず，その発達の程度が社会認識の程度に関わるとも考えられる．近年，外遊びの減少や地図を用いた学習時間の減少などによって，空間認知の発達が遅れている子供が増えているともいわれる．空間認知そのものの発達の遅れも問題ではあるが，これが社会性の欠如に関わるのであれば，公民的資質の育成を目標とする社会科教育の根幹に関わる問題である．子供たちの空間認知と全体的・俯瞰的視点に立った社会認識の発達のために，地図を用いた授業の実践が一層求められる．

なお，この銀座の百貨店屋上のシーンについて，漫画版では扱いが大きく異なる．事前にたまたま分子構造に関する本を手にとっていたコペル君が，屋上から下を見た際に「分子みたいに　ちっぽけだ」とつぶやくと，地上を歩く人々の中に自分自身をみつけ，「僕も…この中にいる」と感じ，「ほんとうに人間って　分子なのかも…目をこらしても見えないような遠くにいる人たちだって　世の中という大きな流れをつくっている一部なんだ…おじさんも　ぼくも」（pp.36-41）と気づくのである．ほぼ原作の通りである文庫版では，先述の通り東京の内部において通勤する人々が「海の潮のように，満ちたり干いたり」していることから，一人一人は全体を構成する一分子であると感じるが，漫画版ではこの記述はない．「海の潮のように」全体が一体となって運動を繰り返す，という内容は，自身が社会の一員であることを感じるうえで重要であり，それは「さっき何を考えていたの…デパートメントの屋上でさ．何だか考えこんでいたじゃないか」という叔父さんの質問に対し，「僕，とてもへんな気がしたんだよ．…だって，叔父さんが，人間の上げ潮とか，人間の引き潮とかいうんだもの．」（p.20）とコペル君が答えていることからも伺える．同書の原作は，文庫版解説の丸山も述べる通り，社会科学的認識と切り離せない形で人間のモラルが問われているのが特徴といえるが，小学生などの年少者を主なターゲットとしたと考えられる漫画版では，社会科学的認識に関わる記述は捨象さ

れるか，簡単に触れている場合が多い．

3．世界におけるモノを介した人と人との結びつきと人間的な関係について

文庫版の三「ニュートンの林檎と粉ミルク」には，コペル君が幼少期に自分が飲んでいた粉ミルクが，世界中の様々な人の手を介して自分に渡ってきたことに気づく場面がある．地理学習においても同様の現象について学ぶ機会がある．例えば高等学校の教科書『新詳地理B』（帝国書院, 2018年発行）では，女子高生の身の回りにあるノート型パソコン，自転車，腕時計，衣服の原料はいずれも海外から輸入されている割合が高いことが示されており，我々の生活で使用している様々なモノは，世界中から運ばれてきていることを学ぶ．これに対して文庫版では以下のようなやり取りがある．

コペル君の手紙「叔父さん．…僕は一つの発見をしました．こんどの発見に，「人間分子の関係，網目の法則」という名をつけました…最初，頭に浮かんだのは粉ミルクでした．…僕は，寝床の中で，オーストラリアの牛から，僕の口に粉ミルクがはいるまでのことを，順々に思ってみました」（pp.83-86）．

【日本に来るまで】牛→牛の世話をする人→乳を搾る人→工場に運ぶ人→粉ミルクにする人→缶に詰める人→缶を荷造りする人→トラックや鉄道に運ぶ人→汽車に詰め込む人→汽車を動かす人→汽車から港へ運ぶ人→汽船に詰め込む人→汽船を動かす人

【日本に来てから】→汽船から荷を下ろす人→倉庫に運ぶ人→倉庫の番人→売りさばきの商人→広告をする人→卸売の薬局→薬局屋まで缶を運ぶ人→薬局の主人→薬局の小僧→母→僕

「僕は，粉ミルクが，オーストラリアから，赤ん坊の僕のところまで，とてもとても長いリレーをやって来たのだと思いました．工場や汽車や汽船を作った人までいれると，何千人だか，何万人だか知れない，たくさんの人が，僕につながっているんだと思いました．…そして，数え切れないほど大勢の人とつながっているのは，僕だけじゃあないということを知りました」（pp.83-87）．

叔父さんの返信「君が気がついたとおり，見ず知らずの他人同士の間に，切っても切れない関係が出来てしまっている…しかしそれは物質の分子と分子の関係のようなもので，人間らしい関係になってはいない…本当に人間らしい関係とは，どういう関係だろう…君のお母さんは，君のために何かしても，その報酬を欲しがったりはしないね．君のためにつくしているということが，そのままお母さんの喜びだ．…人間同志，互いに好意をつくし，それを喜びとすることほど美しいことはない，それが人間らしい関係だと思わないか」（pp.92-98）

ここで記されている通り，商品を受け取った時に，店員や生産者に対して感謝の気持ちを抱くことは，多くの場合はないであろう．しかし現実にモノを介して世界中の人々がつながっていることは事実であり，またそれによって豊かな生活を送ることができていることも事実である．同書ではそのつながりの相手への気持ちの持ち方について問題を提起している．

この点に関しては，ユネスコ60周年記念国際シンポジウムの成果書の中で，岩佐（2007）が同様の問題を指摘している．「油で揚げるだけのアジを食卓に並べるまでに，タイで漁をし，工場で調理し，日本に運ばれ，購入するまでに，長いプロセスがあることに気づく．我々人間は…世界の多くの人々と相互依存の関係にある．しかし，そうした相互依存関係を維持するのは，必要とする物資やサービスを手に入れるためで，つながりの相手のことを思いやり，配慮をもってそうしているわけではない．つながり

の相手・対象を，ただ自分の目的のために利用するだけで，相手をグローバル・コミュニティーのメンバーとして正当に扱っているとは言えない」(pp.275-276).

叔父さんや岩佐が指摘する，モノでつながっている相手への配慮や思いやりは必要であろうか，不要であろうか，または不可能であろうか．店舗で商品を受け取る際に，対価である代金を支払っていれば，商品を受け取ることは当然の権利である．現代は，貨幣経済が浸透し，合理的に取引ができている反面，例えば古代都市の市場において物々交換が行われていた時代と比べると，取引相手の顔がみえず，相手に対して感謝や思いやりの気持ちが起きにくいと考えられる．経済史学の川勝（1991）も，文化交流の基本は相手のアイデンティティの尊重であり，全てを価格に還元する市場原理とは馴染まないと指摘する．しかし様々な地球的課題を抱えている現在，世界中の人々が運命共同体であり，またその認識をもつ必要がある．子供たちと世界とが具体的につながる事例は多くはない中で，現実としてモノを介してはつながっている．そのつながりの相手への感謝，配慮，思いやりを抱くような授業が実践できれば，またそのような授業が日本だけでなく世界中で実践できれば，世界の人々の心理的距離を縮め，「グローバル・コミュニティー」としての認識を育むことにつながるのではないか.

コペル君の「網目の法則」や岩佐のアジの話は，モノを消費する側からの説明であるが，モノを生産する側として，一つの歌詞を紹介する．ミスターチルドレンが2007年に発表した『HOME』（トイズファクトリー）というアルバムに収録されている「彩り」（作詞・作曲　桜井和寿）という曲の歌詞である.

「ただ目の前に並べられた　仕事を手際よくこなしてく　コーヒーを相棒にして　いいさ誰が褒めるでもないけど　小さなプライドをこの胸に　勲章みたいに付けて　僕のした単純作業がこの世界を回り回ってまだ出会ったこともない人の笑い声を作ってゆく　そんな些細な生き甲斐が　日常に彩りを加える　モノクロの僕の毎日に　少ないけど赤黄色緑」

この歌詞は，町工場などで何らかのモノを生産している人を描いていると思われる．自分が作ったモノが世界の誰かの手に渡り，その人の笑い声をつくっていることを想像すると，単純作業の繰り返しでモノクロな日々にも，僅かながらの彩りが加わる，という内容である．この歌詞にあるように，モノを作った人にとっては，それを受け取った人の笑顔が想像でき，豊な気持ちになれることが重要である．もし「モノを受け取った人も，対価であるお金を支払っているので，笑顔も感謝もありはしない」と生産者が考えてしまえば，モノを作るということは単なる作業になってしまう．モノを作る側も受け取る側も，日々の生活の中で豊な気持ちで生活を送るためには，モノを介してつながる相手への感謝や敬意の気持ちを持つことが必要である.

このような考え方は，理想的ではあっても現実的ではないであろうか．ここで消費文化を介して人間同志が結びついた事例を紹介する．今日，日本の企業によって製作されたアニメーションやテレビゲームなどのサブカルチャーが，世界中で支持されていることは地理学習でも扱われる．その日本のアニメを好むある中国人男性が，日本の人気アニメの声優を中国へ招き，中国人のファンと交流するイベントを開催しており，彼によると「アニメ好きに日本嫌いはいない」という．国際政治の舞台やそれを報道するメディアにおいては，お互いの関係性やイメージがよいとはいえない日中関係も，アニメという消費文化が架け橋となり，相手の文化

を尊重する気持ちから，アニメファン同士ではよい関係が築けているという[1]．日本のサブカルチャーへの支持は世界中に広まっているため，これを介して関係性を構築していくことには，大きな可能性がある．

4．文化や政治のしくみに対する外国の影響とそれらの国への敬意や尊重の意識

文庫版の九「水仙の芽とガンダーラの仏像」では，コペル君と叔父さんが直接会ってやり取りをする．お彼岸のことから仏像の話しになると，叔父さんは仏像を最初に作ったのはギリシャ人だと説明し，信じられないコペル君へ，ガンダーラで発見された最も古い仏教彫刻の写真を見せる．そのガンダーラの仏像は顔や体つきが西洋人に近く，長い間東洋の空気を吸い，仏教の気分に浸っていたギリシャ人によって作られたこと，言い換えれば，そのガンダーラの仏像は仏教思想とギリシャ彫刻技術の影響を受けていることを知り，「学問や芸術に国境はない．…ギリシャから東洋の東の端までの遠い遠い距離―二千年の時の流れ―生まれては死んでいった何十億の人々―そして，さまざまな民族を通して，とりどりに生まれて来た，美しい文化！」（pp.292-293）というように，コペル君はガンダーラの仏像をとおして，長い年月や広い空間の隔たりがあっても，学問や文化は空間的・時間的につながっていることに気づき，感動するのである．

文化が他国の影響を受けている事実は数多くあり，また社会科においても扱われている．例えば『小学社会6上』（教育出版）には，聖徳太子が小野妹子らを遣隋使として中国に派遣し，進んだ政治の仕組みや文化を取り入れたり，中国から帰国した留学生とともに，すべての土地と人民を天皇が治める政治のしくみを作ることが扱われている．また仏教による国造りの象徴でもある奈良の大仏づくりにおいては，高度な技術をもつ朝鮮からの渡来人の子孫を工事の責任者にしたり，渡来人の子孫であり仏教の教えを広めた行基が高僧に任命されたことが扱われている．

このように日本の文化や政治のしくみの多くが，中国や朝鮮半島の影響を受けており，その事実は教科書にも記載されているものの，それらの国への敬意や尊重の意識は育まれているであろうか．日本に限らず各国の政治や文化は，多くの国の影響を受けており，その政治のしくみや文化が優れたものであるならば，影響を与えた国に対する敬意や尊重の意識をもってもよいのではないか．コペル君が気づいたように，世界の国や地域は文化を介してもつながっているため，相互に関係をもつ国同士が敬意や尊重の意識をもつことによって，各国間の心理的距離は飛躍的に縮まり，世界中の人々が一つになって共通の地球的課題に向き合う「地球市民」の意識を育むことにつながる可能性もある．このような意識を育んだり，意識を変えたりすることは大人には難しく，子供の頃からの教育によるほかはない．理想的な世界の追求は教育の分野でこそ必要であり，教育でそれを実践しなければ実現は不可能であろう．

そしてこの九章を経て十「春の朝」では，これまでの学びを踏まえて，コペル君が叔父さんへ送る手紙の中で，「僕は，すべての人がおたがいによい友だちであるような，そういう世の中が来なければいけないと思います．人類は今まで進歩して来たのですから，きっと今にそういう世の中に行きつくだろうと思います．そして僕は，それに役立つような人間になりたいと思います．」（p.298）というように，世の中に対して何かしらの貢献をする人間になる決意を記すのである．このような考え方は，まさに公民的資質の育成を目指す社会科教育によって育むべ

き資質といえる．

なお，漫画版では九章の内容は掲載されていない．九章において，文化は様々な国の多くの人々によって長い年月をかけて継承・発展されてきたことを学んだことで，十章の「すべての人がおたがいによい友だちであるような，そういう世の中が来なければいけないと思います．人類は今まで進歩して来たのですから…」という考えにつながっている．その点で九章も本書において重要な章の一つといえるが，漫画版では扱われていないのは，この内容が倫理的というよりは社会科学的認識に近いため，Ⅱの2でも述べたように年少者を主なターゲットとする漫画版では捨象されたと考えられる．漫画版は，教育的分野における歴史的名著である同書を広く世間に広めた点において大きな役割を果たしたと思えるが，社会科学的認識に関わる内容は削除されている部分も多いため，漫画版を読んだことをきっかけとして，文庫版も読んでいただくことをお勧めする．

Ⅲ　『君たちはどう生きるか』を手がかりとした学習の提案

1．大学生による「グローバル・コミュニティー」としての認識の育成に向けての授業案

Ⅱの3で記したように，現代社会は世界中の人々が相互に支え合うことで生活が維持されている現状にありながら，お互いに対して敬意・尊重・感謝の気持ちがあるわけではなく，岩佐の言う「グローバル・コミュニティー」のメンバーととらえている人は少ないであろう．様々な地球的課題が山積みの中，地球に住む人間は運命共同体ともいえる．この「グローバル・コミュニティー」としての意識を，学校教育においてどのように育むかについて，勤務校である東京学芸大学における授業[2]でレポートを課した．ここでは2018年度のレポートからいくつかの授業案を紹介する（第2表）．

まず比較的多くの学生が記述した方法として，学校給食を利用したものがある（①）．給

第2表　世界中の人々が「地球市民」「運命共同体」「グローバル・コミュニティー」であることの認識を育むための授業案

①	ある日の給食を見せ，もし輸入がなくなった場合の給食を見せることで，自身が食べているものの多くは世界の人々によってつくられていることに気づく．
②	日本の自給率が0％のカカオを用いた授業．チョコレートがどこから来るのかを学ぶ．
③	輸入されている食材が，なぜ輸入しなくてはならくなったのか，なぜその国から輸入なのか，などを調べさせる．
④	「いただきます」という言葉には，様々な方面への感謝が込められている．
⑤	貿易の歯車が狂った時に，私たちの身の回りではどのようなことが起きるか，オイルショックなど，過去の事例をもとに考える．エルサレムの宗教問題など，日本と関わりがなさそうな問題でも，石油の輸入など，日本人の生活に大きな影響があることから，世界中の人々が「運命共同体」であるといえる．
⑥	第四次中東戦争によるオイルショック．この日本人の生活への影響．
⑦	ペットボトルを導入に，石油の必要性と日本への輸入について．
⑧	着ている衣服の生産国．
⑨	好きなものを一つあげ，生産から自身に届くまでを見ていくことにより，自分に直接・間接に関わっていることを学ぶ．
⑩	気候変動や他国との関係悪化などにより，自分たちの地域に他の地域の食料品が届かなくなったらどうする？と問い，生活が回りの国・地域に支えられていることを学ぶ．
⑪	日本が助けられる側（農産物など）と助ける側（ODAなど）に分けて理解する．
⑫	世界的問題が発生した要因を学び，自分自身とまったく関係がないか，考える．そのうえで，解決策として，自分なりの案を検討する．

①～⑫は牛垣が担当した東京学芸大学における授業の受講学生．

食で使われている食材も，大部分を輸入に頼っているものもあり，もし輸入が途絶えてしまった場合，給食や日常の食生活がどのように変化するかを学ぶことで，自分たちの食生活は世界の人々によって支えられていることを学ぶという内容である．また「いただきます」という言葉は，様々な人への感謝が込められている，と記した学生もいる（④）．普段は何気なく言っている「いただきます」を，「誰に対して言うのか，なぜ言うべきなのか」を一度でも考えることにより，以後それを言うたびに，食べ物が食べられることへの感謝や，食べ物の供給に関わった人への感謝の気持ちが，少しずつ育まれるかもしれない．

次に比較的多いのが，かつてのオイルショックの経験を活かした方法である（⑤・⑥）．中央アジアでの宗教問題など，日本人の生徒にとっては無関係と感じがちなことでも，日本人の生活は石油に頼っている面があり，石油の輸入が途絶えた場合には現在の生活を送ることは困難になることを理解することで，我々の生活が世界の人々によって支えられていることを学ぶという内容である．ペットボトルなど日常的に利用しているものを取り上げ，その原料は石油であり，石油によって便利で豊な生活を送ることができていることを学ぶという方法もあり得る（⑦）．

その他にも，気候変動による作物栽培の減少や二国間の政治的な関係悪化などにより，貿易相手国からの食料品が届かなくなる状況について考えさせ，我々の生活が多くの国や地域によって支えられていることを学ぶ方法もあり得る（⑩）．他国との政治的なやり取りはニュースで目にするが，その政治的な関係が我々の生活と直接関係があることを認識するうえでも，貿易による取引関係は重要なテーマである．また日本の輸入品について学ぶ際に，その食料品は国内での生産量が少なく自給できないなど，輸入する必要性を同時に考えることにより，単なる貿易による国同士のつながりの話しではなく，他国によって支えられているという意識を育める可能性がある（③）．

２．現職教員による授業案

Ⅱの内容は，ほぼ毎年担当している教員免許状更新講習においても扱っているため，ここでは2018年8月に実施した同講習の受講者の反応についてみる．この講習は4時限＋試験で構成され，1時限目は都市の理論と現状，2時限目は大手チェーン店の展開に伴う地域問題，3時限目は身近な地域の動態地誌的なとらえ方，4時限目に地理教育における公民的資質の育成，という内容で行った．試験では「本日の講習の中で，特に興味・関心をもった部分を取り上げ，日頃従事している仕事（教育・研究・その他）の中で，どのように活かすことができるか（活かせる可能性があるか），記入せよ.」という内容で解答を求めた．ここでは，この解答において『君たちはどう生きるか』に関する内容をあげた事例を紹介する（第3表）．

なお本年度の受講者は67名で，そのうち29名が特に興味・関心をもった部分として同書を扱った内容をあげており[3]，Ⅱの内容は現職教員が大半である受講者に対しても一定の反応があったと思える．

第3表のAの受講者（公立小学校勤務）は，庄内平野における米農家が抱える課題や努力，工夫，協力関係などを学ぶことで，子供たちは生産者に感謝し，自分たちに何ができるかを考えるようになったと記している．様々な工夫を凝らした生産者の思いを子供たちが感じることで，より感謝の気持ちを育めるかもしれない．

Bの受講者（公立中学校勤務）は，政治のしくみや文化は多くの国から影響を受けており，

第3表　『君たちはどう生きるか』（岩波文庫版）を手がかりとした学習に対する意見

A	米農家が抱える課題やそれを乗り越えるための協力，努力，工夫を学ぶことで，生産者へ感謝し，自分たちにもできることを考えるなど，米を介して生産者とのつながりを考えられるようになった（公・小）.
B	政治の仕組みや文化などは，多くの国から影響を受けて成り立っており，それに対する尊敬の念をもつことを教えなければ，独善的な人間になる．地理を通じて，深い情を育めるようにしたい（公・中）.
C	中国からの回賜品はボランタリー精神ではなく中華思想による周辺諸国への蔑視も含まれるため強調し過ぎるのは危険だが，ものの交換や伝播が人を介して行われるという自明のことをもっと意識させる必要がある（私・中高）.
D	スーパーに並んでいる商品から貿易のことを学んだ場合も，その全体的な視点を日常生活にも結び付ければ，ごみを放置するなど身勝手な行動はしなくなる（公・小）.
E	身近な地域での地域巡りや工場・農家へのヒアリングなどにより，相手やつながりの大切さを学ぶ必要がある（不明）.
F	感謝する心は，まず大人がしっかりともち示していくことで，子供たちにも育まれていく（私・高）.
G	多くの国々の先人から学ぶことが，世界が同じ方向に向き，平和な世の中をつくることにつながる（私・小）.

A ～ Gは牛垣が担当した2018年8月の教員免許状更新講習の受講者.
公は公立，私は私立の学校を，小・中・高はそれぞれ小学校，中学校，高等学校を意味する.

相手国への尊敬の念をもつことを教えなければ，子供たちは独善的な人間になりかねないため，地理を通して深い情を育みたいと記している．地理では世界が様々な形でつながっている事実を学ぶが，そこから派生し得る感情については軽視しがちであるため，そのような感情面に働きかけ，人格形成を念頭においた授業が展開できれば有意義であろう.

Cの受講者（私立中学高校勤務）は，中国からの回賜品はボランタリー精神ではなく中華思想による周辺諸国への蔑視も含まれるため，強調し過ぎるのは危険と指摘している．確かに他国から受けた影響がどのような交流の中から生じたのか，という点についてはしっかりと把握するべきであり，そのうえで相手の国や地域に対する敬意・感謝の意識を育むべきであろう.

Dの受講者（公立小学校勤務）は，スーパーに並ぶ商品と貿易関係から，世界で生産された食品が私たちの手元に運ばれてくるという世界的・全体的な視点を学んだ後に，教科で学んだ全体的な視点を日常生活に結びつければ，学級経営のうえでも効果があると指摘している．例えば勝手にごみを放置する子供がおり，そのような行為を教室全体という視点に立ってとらえることができれば，自身で迷惑行為をしていたことが分かるという．これも教科での学びを子供たちの人格形成につなげる事例といえる.

Eの受講者（所属不明）は，直接体験の重要性を指摘している．身近な地域学習における工場や農家の方へのヒアリングなどの機会に，生産者に対する感謝の気持ちを育む必要があるという．モノを介してつながっている相手への感謝や敬意が感じにくいのは，相手が見えないことが大きな要因と考えられる．そのため学校教育において生産者へ話を聞く機会は，普段は関わることができない生産者に対して敬意や感謝の気持ちを育むためには貴重な機会といえる.

Fの受講者（私立高校勤務）は，感謝する心をまずは大人がしっかりともち，子供たちに示すことで，それを見る子供たちにもその態度が育まれていくと指摘している．教科のあり方の前に，教育者としての態度を問うている.

最後にGの受講者（私立小学校勤務）は，世界が同じ方向を向き，平和な世界をつくるためには，自身が住む国や地域にとどまらず，多くの国の先人から学ぶことが重要と指摘している．人々の行動がグローバルになった今，世界の偉人や世界で活躍する人物が残した業績や言葉を学ぶ機会が，様々な場面で増えることを期待したい.

Ⅳ おわりに

本稿では，『君たちはどう生きるか』の漫画版がベストセラーとなり注目を集めている中で，同書の文庫版を手がかりとし，社会科および地理学習による公民的資質の育成に向けた授業の可能性や方法について改めて検討した．主に主張したのは以下の点である．

文庫版の一「へんな経験」に関しては，都市内部の通勤流動といった地理的事象に対する学習から，社会認識を育める可能性を指摘した．また地図を用いた学習などによって育むことができる全体的・俯瞰的視点は，空間認知の育成のみならず，社会認識の発達に関わるとも考えられるため，改めて地図を用いた学習の必要性を指摘した．

三「ニュートンの林檎と粉ミルク」に関して，地理学習においては，世界中の人や地域・国同士がモノでつながっているという事実のみではなく，つながっている相手への感謝・敬意・尊重の気持ちを育む必要があることを指摘した．

九「水仙の芽とガンダーラの仏像」や十「春の朝」に関しては，政治のしくみや文化の形成に影響を与えた国や地域に対する敬意や尊重の意識を育む教育を，世界の国同士ができれば，世界の人々の心理的な距離は狭まり，「グローバル・コミュニティー」のメンバーとしての認識を育むことにつながることを指摘した．

学生によるレポートからは，世界中の人々が「グローバル・コミュニティー」のメンバーであることや運命共同体であることの認識は，例えば学校給食で提供される食材の生産地を学んだり，私たちの生活を支えている石油の多くは中央アジアから輸入されていることを学ぶ際の授業のやり方次第で，育むことができることが示唆された．

また教員免許状更新講習の受講者からは，モノを介してつながっている相手への感謝や敬意の意識は，厳しい自然環境の中でも様々な工夫や努力をしている農家のことを学んだり，身近な地域学習で普段は関わることのできない生産者との対話により，効果的に育成できることが指摘された．

世界中の人々が「グローバル・コミュニティー」のメンバーであることの認識や，モノ・文化などを介してつながっている相手への感謝・敬意の意識を育むための社会科および地理教育は，ほかにも様々な方法があるであろう．地理学習では，様々な空間スケールで国や地域がつながっている事実やその構造を学ぶが，つながっている相手への感謝や敬意の意識を育む教育は，重視されてこなかったように思える．『君たちはどう生きるか』において警鐘を鳴らしているのはこの点であり，これは普段の地理学習における少しの工夫によって実現可能なように思えるし，すでに実践している教員も多いであろう．このわずかな工夫によって，公民的資質を育成するための地理教育は，大きく可能性を広げることができると考える．

本稿は，2018年8月に開催された日本地理教育学会（於・大阪教育大学）で発表した内容を骨子としている．この際にご意見をいただいた先生方に厚くお礼申し上げます．

注

1）日本経済新聞2013年12月22日（日）朝刊より．

2）主に初等教育教員養成課程社会専修および中等教育教員養成課程社会専攻の学生に対する授業．

3）「特に興味・関心をもった部分」の記述

は，複数をあげることも可としている．

文献

岩佐信道（2007）：通底の価値の基盤としての相互依存のネットワーク．服部英二監修『文化の多様性と通底の価値』麗澤大学出版会，pp.270-281.

川勝平太（1991）：『日本文明と近代西洋―「鎖国」再考―』日本放送出版協会，266p.

吉野源三郎（1982）：『君たちはどう生きるか』岩波書店，339p.

吉野源三郎（著）・羽賀翔一（漫画）（2017）：『漫画　君たちはどう生きるか』マガジンハウス，342p.

A Study for Fostering Citizenship Through Social Studies and Geographic Education Consult a “How do you live?”

USHIGAKI Yuya*

Keywords：“How do you live?”, Social Studies, Geographic Education, Connections

*Department of Geography，Tokyo Gakugei University